

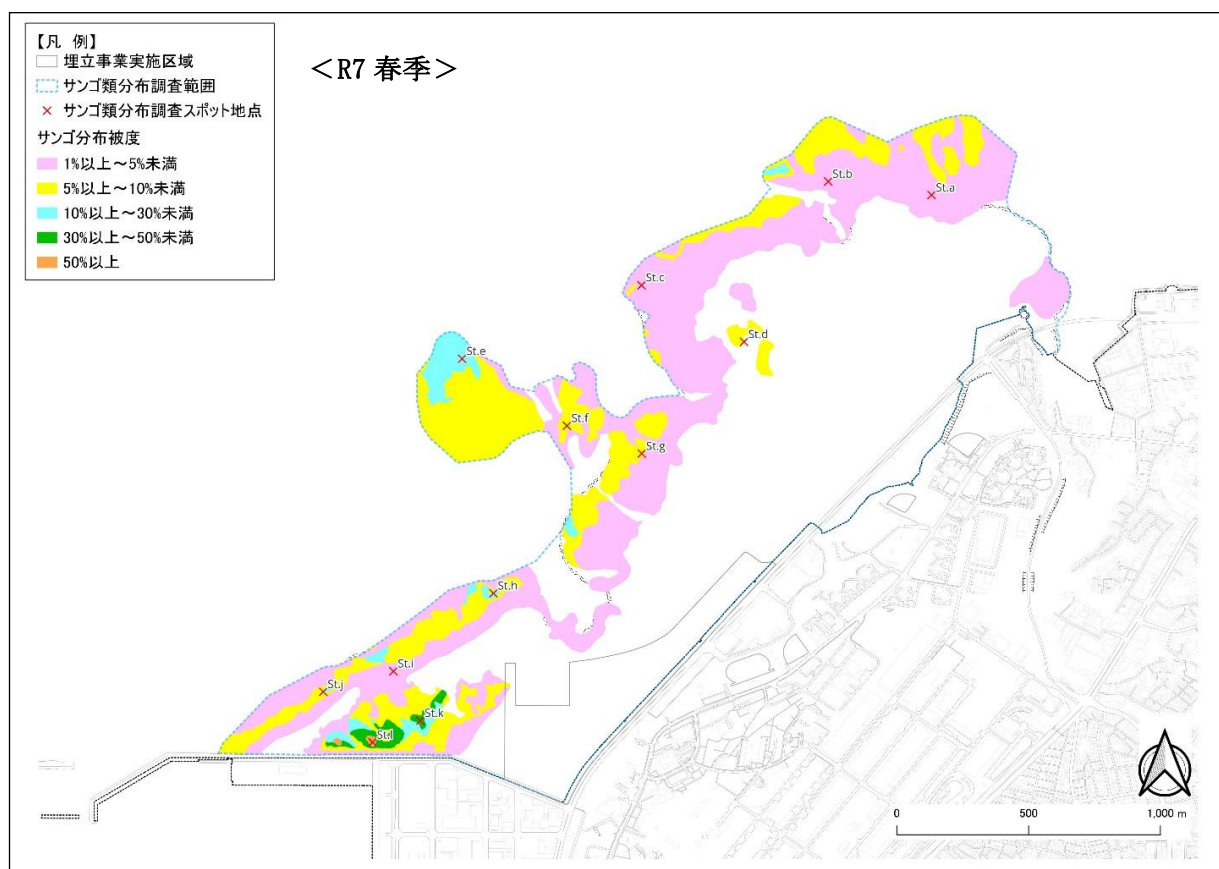
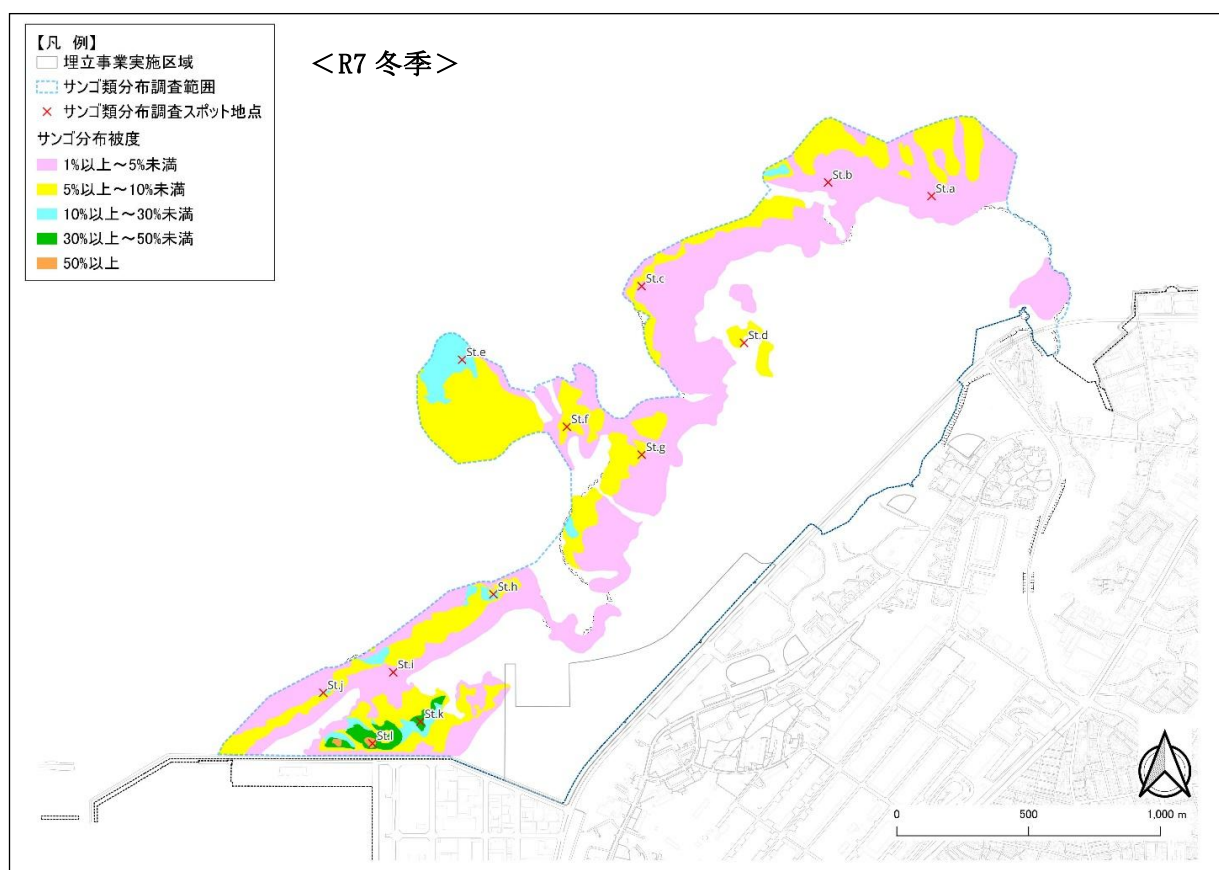


図 6.11.1.8(2) サンゴ類の分布状況（四季での比較）

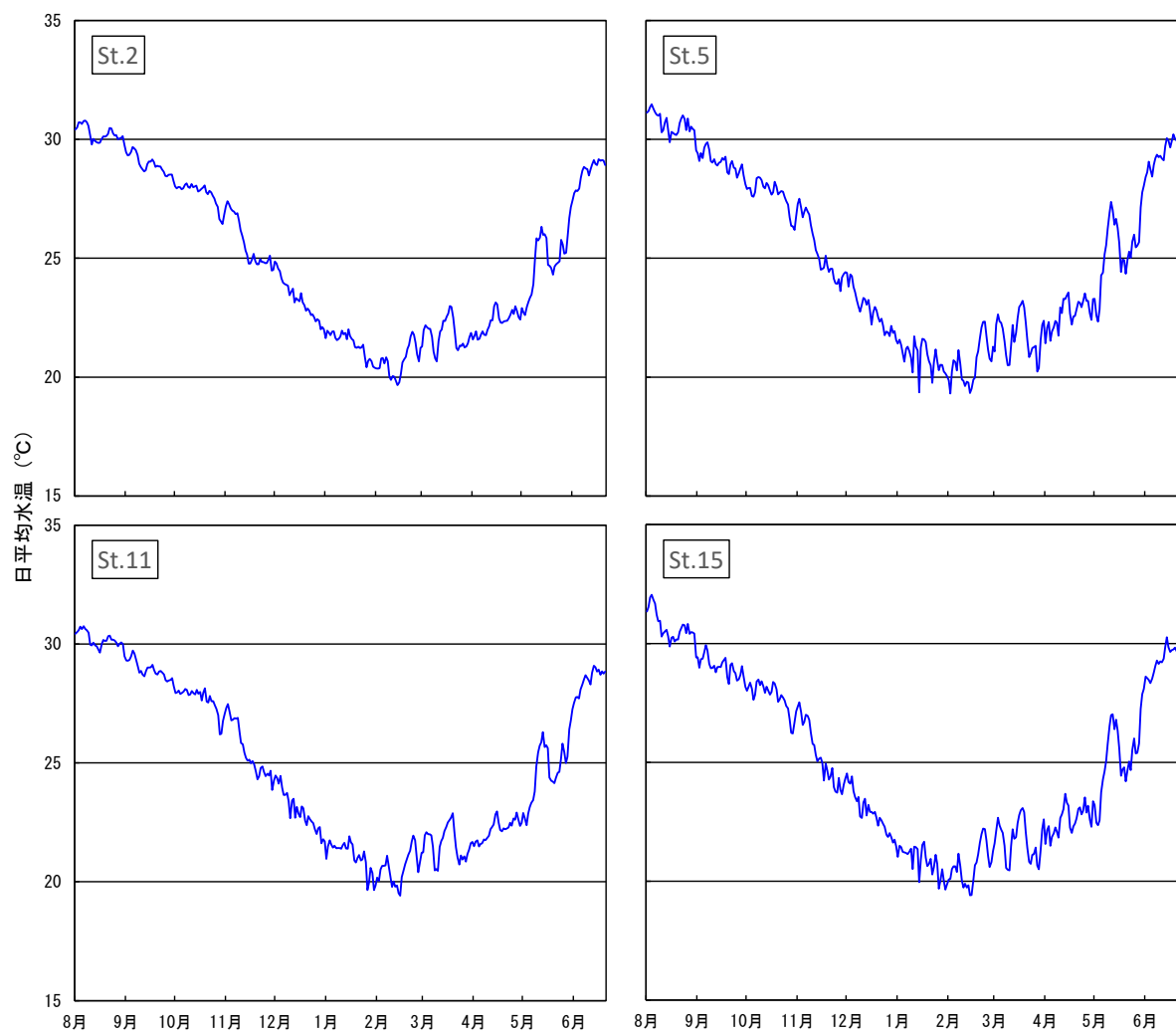


図 6.11.1.9 各地点における日平均水温の推移 (2024/8/10~2025/6/29)

(サ) カサノリ類

ア) 分布調査

第 1～3 回調査におけるカサノリ類（カサノリとホソエガサ）の分布面積を表 6.11.1.39、分布状況を図 6.11.1.10 に示す。カサノリの分布状況を図 6.11.1.11、ホソエガサの分布状況を図 6.11.1.12 に示す。

第 1～3 回調査では、カサノリ類は主に浦添ふ頭地区のリーフ内における橋梁部周辺で確認された。カサノリ類の分布面積については、第 1 回調査ではカサノリの方が分布面積が広がったものの、第 2 回、第 3 回調査ではホソエガサの方が分布面積が広がった。いずれの調査時期においてもカサノリ、ホソエガサともに全生育箇所における被度は 5%未満であった。

表 6.11.1.39 カサノリ類の分布面積

単位：ha			
	カサノリ	ホソエガサ	カサノリ類
第1回調査（R7.1月）	2.1	0.1	2.1
第2回調査（R7.2月）	6.2	8.1	8.3
第3回調査（R7.3月）	5.4	9.6	10.1

注：カサノリ類の面積は、カサノリ、ホソエガサの混成域を含む。



図 6.11.1.10 (1) カサノリ類 (カサノリとホソエガサ) の分布状況 (第1回調査: 令和7年1月)



図 6.11.1.10 (2) カサノリ類 (カサノリとホソエガサ) の分布状況 (第2回調査: 令和7年2月)



図 6.11.1.10 (3) カサノリ類 (カサノリとホソエガサ) の分布状況 (第3回調査: 令和7年3月)

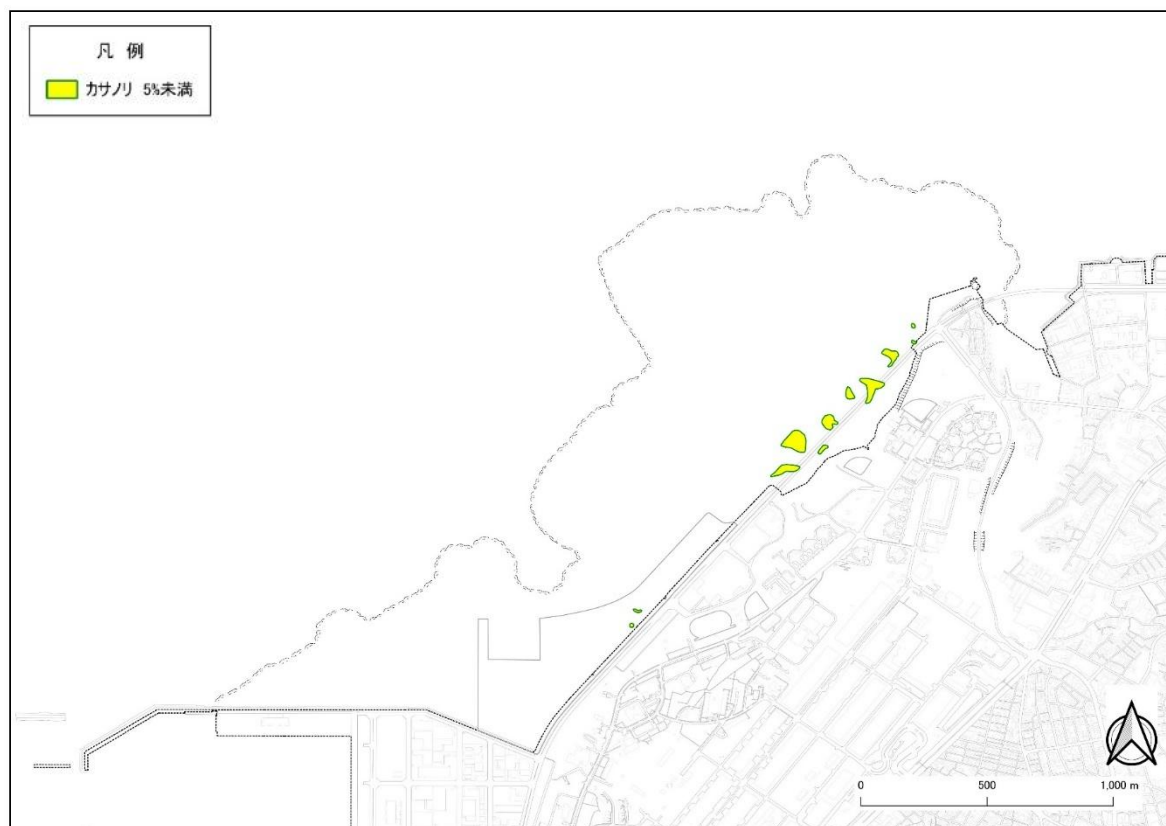


図 6.11.1.11 (1) カサノリの分布状況 (第1回調査: 令和7年1月)

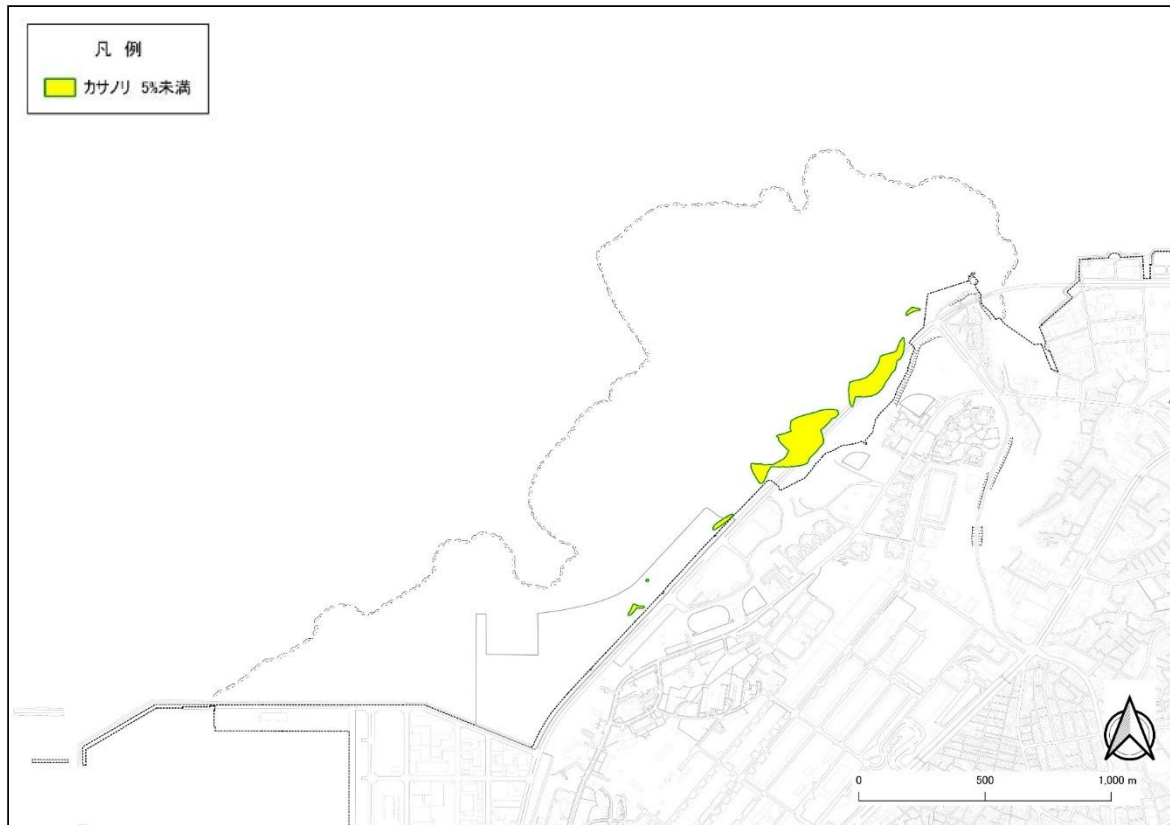


図 6.11.1.11 (2) カサノリの分布状況 (第2回調査: 令和7年2月)

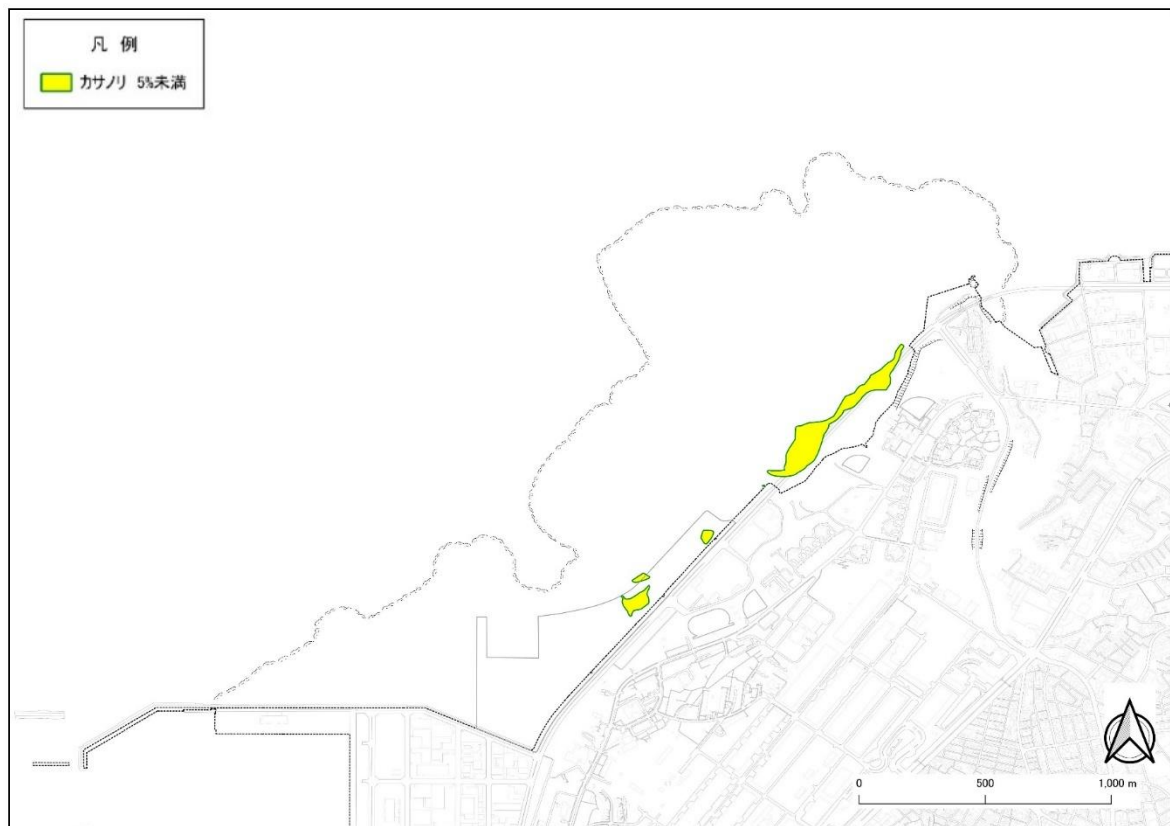


図 6.11.1.11 (3) カサノリの分布状況 (第3回調査: 令和7年3月)

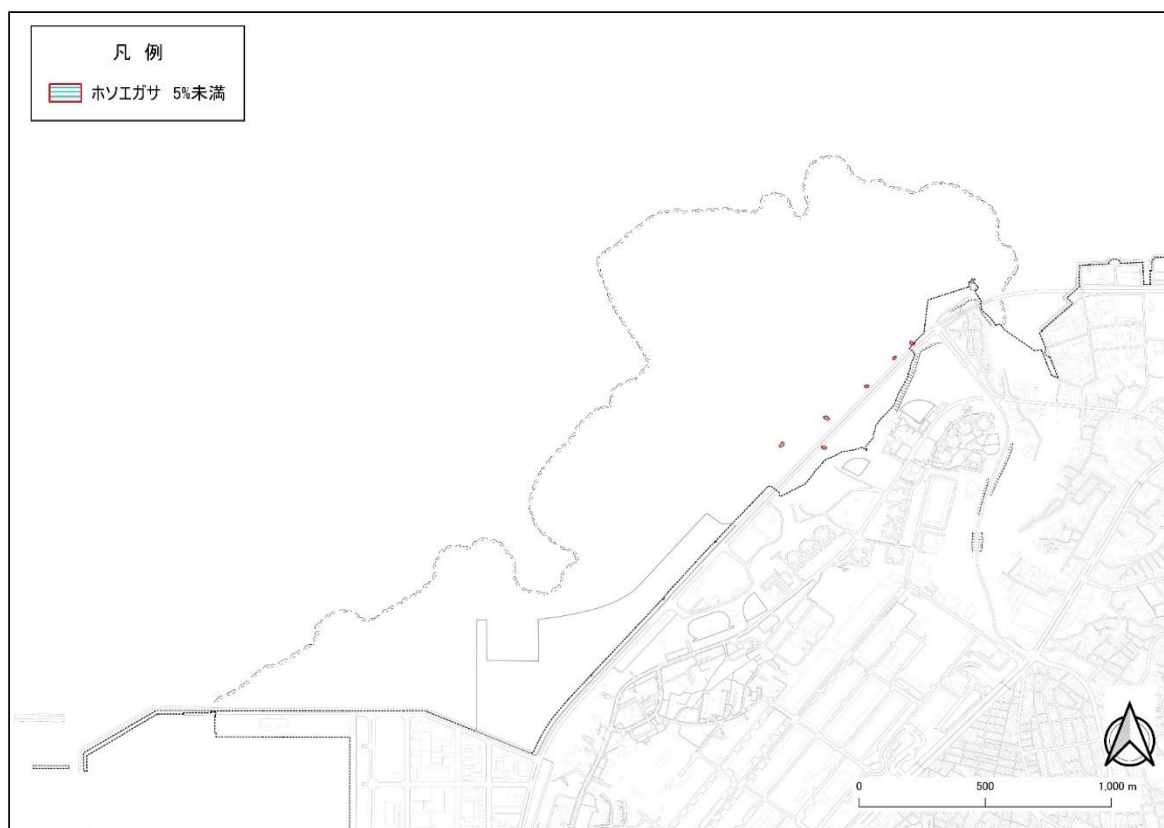


図 6.11.1.12 (1) ホソエガサの分布状況（第1回調査：令和7年1月）

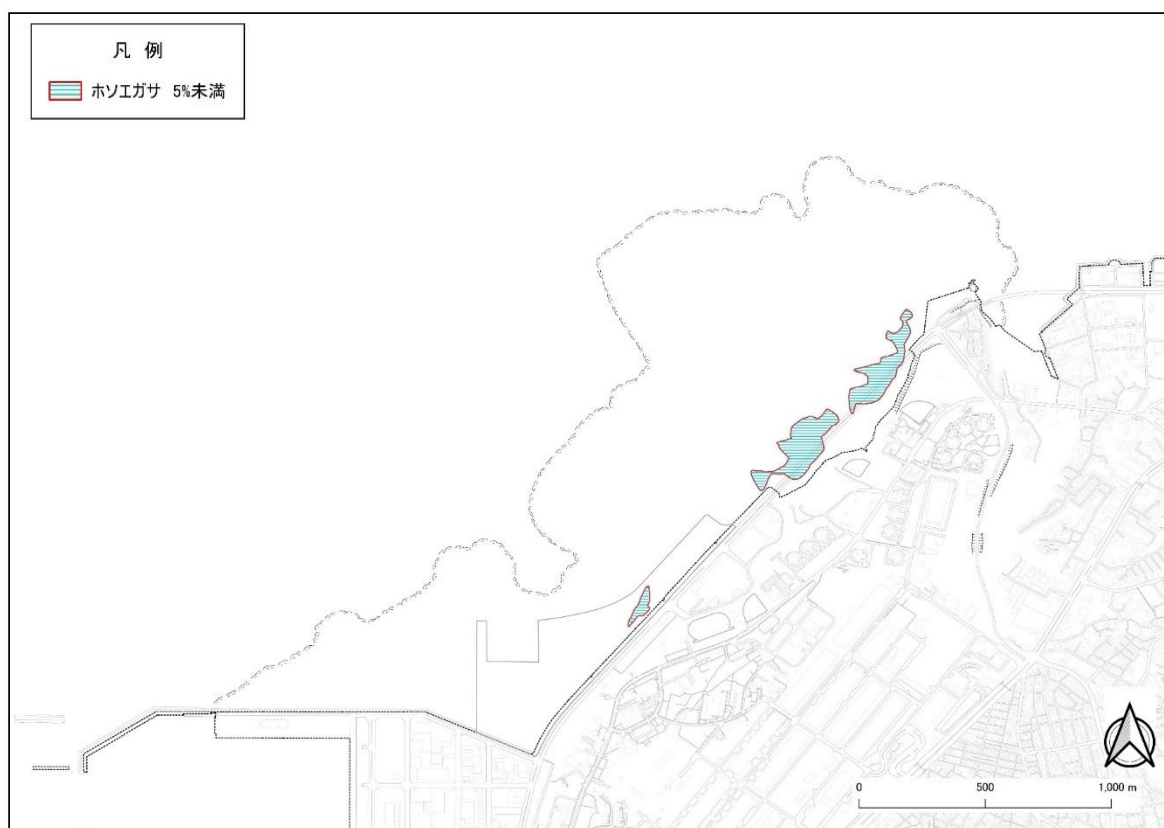


図 6.11.1.12 (2) ホソエガサの分布状況（第2回調査：令和7年2月）

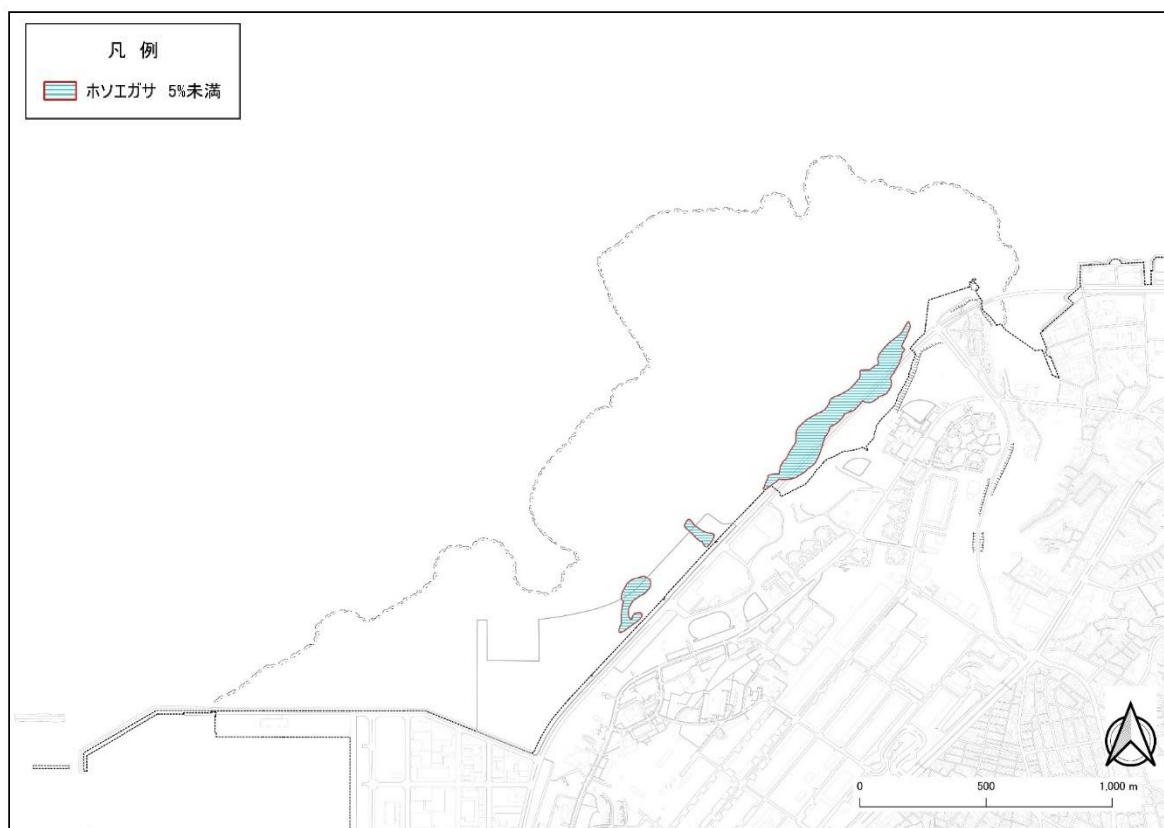


図 6.11.1.12 (3) ホソエガサの分布状況（第3回調査：令和7年3月）

イ) スポット調査

確認されたカサノリ類一覧は表 6.11.1.40 に、第 1～3 回調査におけるカサノリ類の分布状況とスポット調査位置は図 6.11.1.13 に、スポット調査結果は表 6.11.1.41 に示すとおりである。

コドラート (2m×2m) 内におけるカサノリ及びホソエガサの被度は全地点で 5%未満であった。株数は調査時期によって異なるものの、カサノリ、ホソエガサともに 1～10 本から 101～500 本まで確認された。成長段階はカサノリ、ホソエガサともに 1 月及び 2 月では幼体、輪生枝、傘状体が確認され、3 月には衰退した状態も確認された。

表 6.11.1.40 確認された重要な種一覧 (カサノリ類)

No.	綱名	目名	科名	和名	調査時期			重要な種選定基準			
					R7.1	R7.2	R7.3	①環境省RL	②環境省海洋生物RL	③水産庁海洋生物RL	④改訂沖縄県RDB第3版
1	緑藻	カサノリ	カサノリ	ホソエガサ	●	●	●	準絶滅危惧			絶滅危惧Ⅰ類
2				カサノリ	●	●	●	絶滅危惧Ⅱ類			準絶滅危惧
合計	1綱	1目	1科	2種類	2種類	2種類	2種類	2種類	0種類	0種類	2種類

以下の①～④のいずれかに該当しているものを「重要な種」として選定した。

- ①環境省 RL : 「第 5 次レッドリスト (植物・菌類) の公表について (お知らせ)」 (令和 7 年 3 月 18 日報道発表、環境省) に記載されている種及び亜種
- ②環境省海洋生物 RL : 「環境省版海洋生物レッドリストの公表について」 (平成 29 年 3 月 21 日報道発表、環境省) に記載されている種及び亜種
- ③水産庁海洋生物 RL : 「海洋生物レッドリストの公表について」 (平成 29 年 3 月 21 日報道発表、水産庁) に記載されている種及び亜種
- ・絶滅危惧Ⅰ類 : 絶滅の危機に瀕している種
 - ・絶滅危惧ⅠA 類 : 絶滅の危機に瀕している種のうち、ごく近い将来における野生での絶滅の可能性が極めて高いもの
 - ・絶滅危惧ⅠB 類 : 絶滅の危機に瀕している種のうち、ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
 - ・絶滅危惧Ⅱ類 : 絶滅の危険が増大している種
 - ・準絶滅危惧 : 存続基盤が脆弱な種。現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
 - ・情報不足 : 評価するだけの情報が不足している種
 - ・地域個体群 : 地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群
- ④改訂沖縄県 RDB 第 3 版 : 「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 (レッドデータおきなわ) 第 3 版-動物編-」 (平成 29 年 5 月 17 日、沖縄県) に記載されている種及び亜種
- ・絶滅危惧Ⅰ類 : 沖縄県では絶滅の危機に瀕している種
 - ・絶滅危惧ⅠA 類 : 沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
 - ・絶滅危惧ⅠB 類 : 沖縄県ではⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
 - ・絶滅危惧Ⅱ類 : 沖縄県では絶滅の危険が増大している種
 - ・準絶滅危惧 : 沖縄県では存続基盤が脆弱な種
 - ・情報不足 : 沖縄県では評価するだけの情報が不足している種
 - ・絶滅のおそれのある地域個体群 : 沖縄県で地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれの高い個体群



図 6. 11. 1. 13 (1) カサノリ類の分布状況とスポット調査位置 (第 1 回調査 : 令和 7 年 1 月)

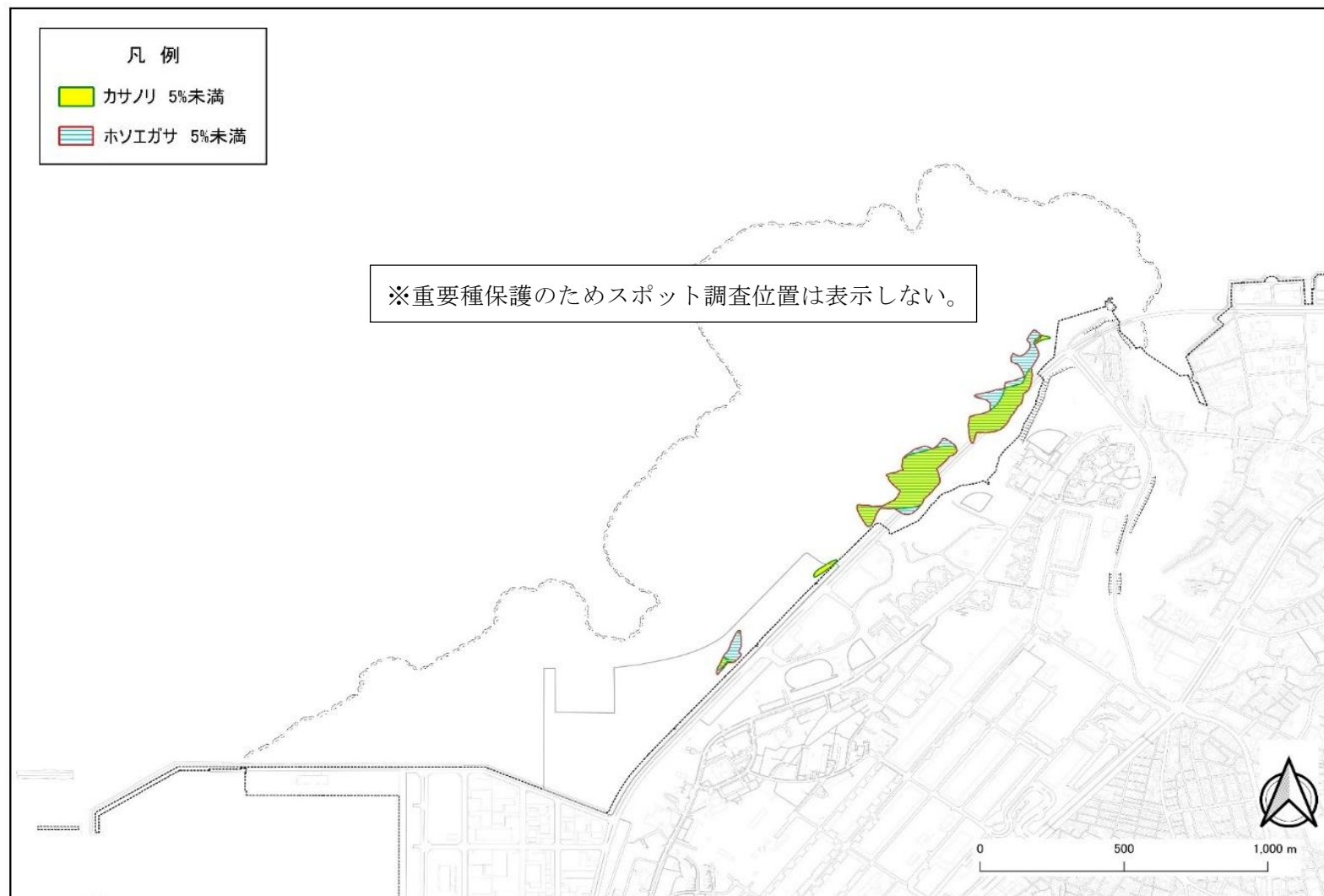


図 6. 11. 1. 13 (2) カサノリ類の分布状況とスポット調査位置 (第 2 回調査 : 令和 7 年 2 月)

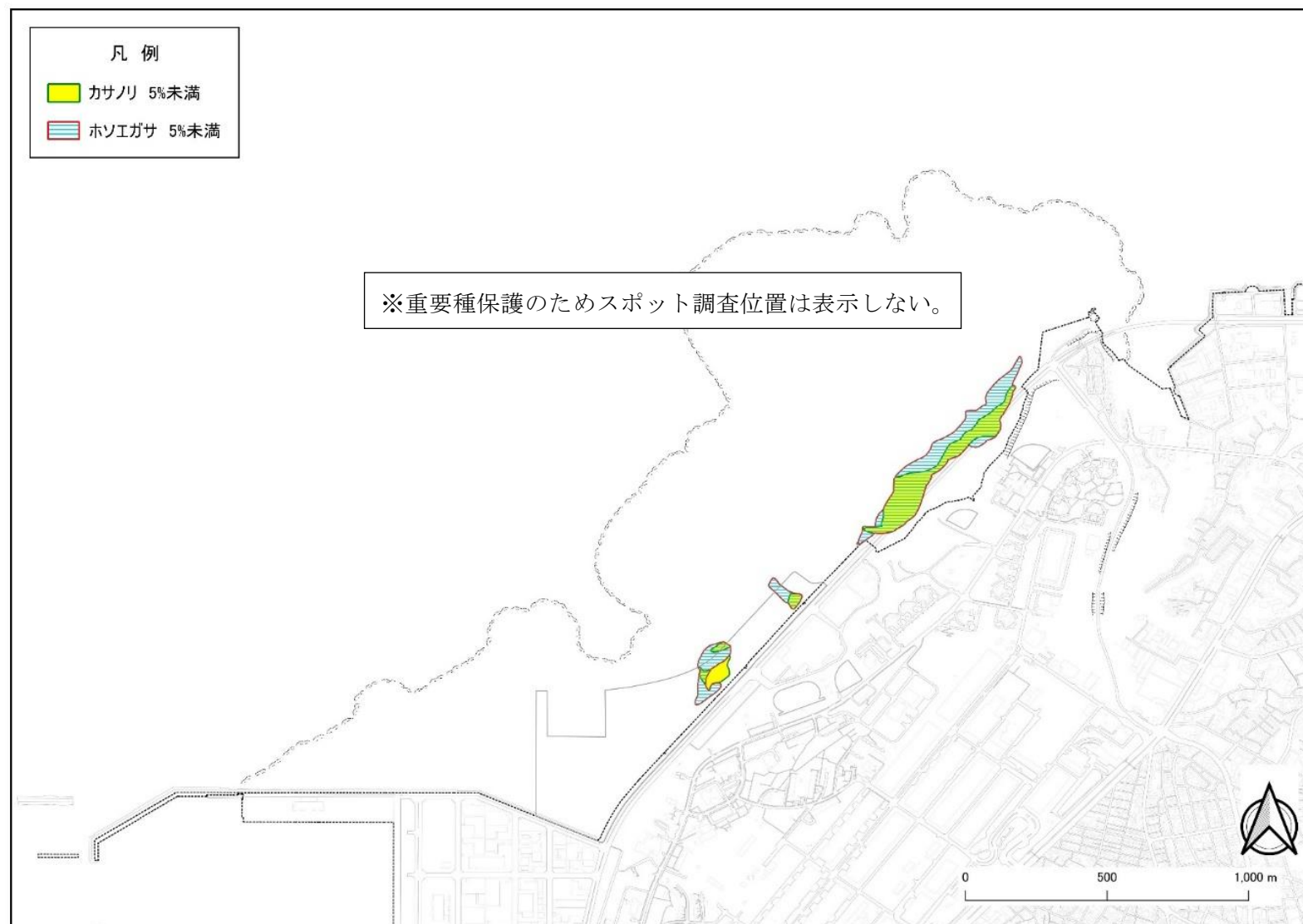


図 6. 11. 1. 13 (3) カサノリ類の分布状況とスポット調査位置 (第 3 回調査 : 令和 7 年 3 月)

表 6.11.1.41 (1) カサノリ類スポット調査結果 (第1回調査: 令和7年1月)

項目	調査地点		St. a		St. b		St. c	
	調査日		令和7年1月16日		令和7年1月16日		令和7年1月16日	
	調査時刻		15:22		14:53		14:17	
地点概況	調査時の水深 (m)		0.3		0.3		0.1	
	底質		砂礫		砂礫		砂礫	
	浮泥		+		-		+	
スポット調査 2m×2m	分類		カサノリ	ホソエカサ	カサノリ	ホソエカサ	カサノリ	ホソエカサ
	被度		<5%		<5%		<5%	
	株数		R		+		++	
	個体群の成長段階		II		II		II	
	地点		枠①: 密度高		枠①: 密度低		枠①: 密度高	
詳細調査 0.5m×0.5m	分類		カサノリ	ホソエカサ	カサノリ	ホソエカサ	カサノリ	ホソエカサ
	株数		3	2	35	11	5	15
	成長段階		II	II	-	II	III	II~III
	着生基盤種類		Cb	Cb	Cb	Cb	Cb	Cb
	着生基盤埋没深さ (cm)		0~0.6		0~0.5		0~0.5	
	着生基盤長径 (cm)		1.5~3		0.5~2		1.5~3	
	その他の海藻被度		<5%		<5%		5%	
	その他の海草被度		<5%		-		<5%	
項目	調査地点		St. d		St. e			
	調査日		令和7年1月16日		令和7年1月16日			
	調査時刻		13:33		13:15			
地点概況	調査時の水深 (m)		0.5		0.4			
	底質		砂礫		砂礫			
	浮泥		+		-			
スポット調査 2m×2m	分類		カサノリ	ホソエカサ	カサノリ	ホソエカサ		
	被度		<5%		<5%			
	株数		++		c			
	個体群の成長段階		II~III		II			
	地点		枠①: 密度高		枠①: 密度低			
詳細調査 0.5m×0.5m	分類		カサノリ	ホソエカサ	カサノリ	ホソエカサ	カサノリ	ホソエカサ
	株数		50	15	9	2	108	6
	成長段階		II~III	II~III	II~III	II~III	II	-
	着生基盤種類		Cb	Cb	Cb	Cb	Cm	Cm
	着生基盤埋没深さ (cm)		0~0.5		0~1		0~2	
	着生基盤長径 (cm)		2~3		0.5~4		1~4	
	その他の海藻被度		10%		5%		<5%	
	その他の海草被度		<5%		<5%		<5%	

注: 1. 水深は実測値を示す。

2. 表中の「-」は確認されなかったことを示す。

3. 各項目の凡例は以下の通りである。

浮泥堆積: +: 部分的に少量確認される、++: 全体的に少量確認される、+++: 全体的に 1mm 以上の堆積が確認される

成長段階: I: 幼体、II: 輪生枝、III: 傘状体、IV: 衰退した状態

株数: R: 1~10 本、+: 11~50 本、++: 51~100 本、c: 101~500 本、vc: 1,000 本以上 (概数記録)、-: 出現せず

着生基盤: R: 岩盤、S: 転石、Pl: 巨礫、Pm: 大礫、Ps: 小礫、Sh: 貝殻、Cm: 塊状サンゴ礫、Cb: 枝状サンゴ礫、その他 (ローフ、空缶等)

表 6.11.1.41 (2) カサノリ類スポット調査結果 (第2回調査: 令和7年2月)

項目		調査地点	St. a				St. b				St. c			
		調査日	令和7年2月14日				令和7年2月14日				令和7年2月14日			
		調査時刻	15:08				14:39				14:11			
地点概況	調査時の水深 (m)	0.2				0.2				0.2				
	底質	砂礫				砂礫				砂礫				
	浮泥	-				+				+				
スポット調査 2m×2m	分類	カサリ		ホソエカサ		カサリ		ホソエカサ		カサリ		ホソエカサ		
	被度	<5%		<5%		<5%		<5%		<5%		<5%		
	株数	R		++		R		++		R		c		
	個体群の成長段階	II		I～Ⅲ		Ⅲ		I～Ⅲ		I		I～Ⅲ		
詳細調査 0.5m×0.5m	地点	枠①：密度高		枠①：密度低		枠①：密度高		枠①：密度低		枠①：密度高		枠①：密度低		
	分類	カサリ	ホソエカサ	カサリ	ホソエカサ	カサリ	ホソエカサ	カサリ	ホソエカサ	カサリ	ホソエカサ	カサリ	ホソエカサ	
	株数	4	16	2	5	1	23	1	11	3	158	2	21	
	成長段階	II I～Ⅲ		I I～Ⅱ		Ⅲ Ⅱ～Ⅲ		Ⅲ I～Ⅱ		I I～Ⅲ		I I～Ⅱ		
	着生基盤種類	Cb, Ps	Cb	Cb	Cb	Cb	Cb	Cb	Cb	Cb	Cb	Cb	Cb	
	着生基盤埋没深さ (cm)	0.2～0.5		0～0.5		0.2～0.5		0～0.5		0～0.5		0～0.5		
	着生基盤長径 (cm)	1.5～5		1.5～3		0.5～4		2.5～4.5		1.5～6		2～4		
	その他の海藻被度	15%		10%		10%		<5%		<5%		<5%		
その他の海草被度	<5%		<5%		10%		<5%		<5%		-			

項目		調査地点	St. d				St. e			
		調査日	令和7年2月14日				令和7年2月14日			
		調査時刻	13:43				12:53			
地点概況	調査時の水深 (m)	0.2				<0.1				
	底質	砂礫				砂、岩盤				
	浮泥	-				なし				
スポット調査 2m×2m	分類	カサリ		ホソエカサ		カサリ		ホソエカサ		
	被度	<5%		<5%		<5%		<5%		
	株数	++		c		+		+		
	個体群の成長段階	I～Ⅲ		I～Ⅲ		Ⅲ		Ⅱ～Ⅲ		
詳細調査 0.5m×0.5m	地点	枠①：密度高		枠①：密度低		枠①：密度高		枠①：密度低		
	分類	カサリ	ホソエカサ	カサリ	ホソエカサ	カサリ	ホソエカサ	カサリ	ホソエカサ	
	株数	28	34	1	3	2	6	8	-	
	成長段階	I～Ⅲ I～Ⅲ		Ⅲ Ⅱ		Ⅲ Ⅱ～Ⅲ		Ⅱ～Ⅲ		
	着生基盤	Cb	Cb, Ps	Cb	Cb	R	Cb	Ps		
	着生基盤埋没深さ (cm)	0～1		0～1		0～1		0～2		
	着生基盤長径 (cm)	3～6		0.5～2		4～10		0.5～14		
	その他の海藻被度	15%		5%		5%		15%		
その他の海草被度	-		-		-		<5%			

注: 1. 水深は実測値を示す。

2. 表中の「-」は確認されなかったことを示す。

3. 各項目の凡例は以下の通りである。

浮泥堆積: +: 部分的に少量確認される、++: 全体的に少量確認される、+++: 全体的に 1mm 以上の堆積が確認される

成長段階: I: 幼体、II: 輪生枝、III: 傘状体、IV: 衰退した状態

株数: R: 1~10 本、+: 11~50 本、++: 51~100 本、c: 101~500 本、vc: 1,000 本以上 (概数記録)、-: 出現せず

着生基盤: R: 岩盤、S: 転石、Pl: 巨礫、Pm: 大礫、Ps: 小礫、Sh: 貝殻、Cm: 塊状サンゴ礫、Cb: 枝状サンゴ礫、その他 (ローフ、空缶等)

表 6.11.1.41 (3) カサノリ類スポット調査結果 (第3回調査: 令和7年3月)

項目	調査地点		St. a		St. b		St. c	
	調査日		令和7年3月17日		令和7年3月17日		令和7年3月17日	
	調査時刻		15:35		14:39		14:11	
地点概況	調査時の水深 (m)		0.2		0.3		0.3	
	底質		砂礫		砂礫		砂礫	
	浮泥		+		+		+	
スポット調査 2m×2m	分類		カサノリ		カサノリ		カサノリ	
	被度		<5%		<5%		<5%	
	株数		+		++		c	
	個体群の成長段階		Ⅱ～Ⅲ		Ⅱ～Ⅳ		Ⅱ～Ⅲ	
	地点		枠①: 密度高		枠①: 密度低		枠①: 密度高	
詳細調査 0.5m×0.5m	分類		カサノリ	ホソエカサ	カサノリ	ホソエカサ	カサノリ	ホソエカサ
	株数		4	19	7	3	58	29
	成長段階		Ⅱ～Ⅲ	Ⅱ～Ⅳ	Ⅲ～Ⅳ	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ～Ⅳ
	着生基盤種類		Cb	Cb	Cb, Ps	Cb, Ps	Cb, Ps	Cb, Ps
	着生基盤埋没深さ (cm)		0.2～0.5	0～0.5	0～0.8	0.5～7	0～1	0～0.5
	着生基盤長径 (cm)		3～6	2～6	2～4	0.5～6	3～11	2～12
	その他の海藻被度		<5%	<5%	15%	<5%	<5%	<5%
	その他の海草被度		-	-	<5%	<5%	-	-
項目	調査地点		St. d		St. e			
	調査日		令和7年3月17日		令和7年3月17日			
	調査時刻		14:05		13:14			
地点概況	調査時の水深 (m)		0.2		0.2			
	底質		砂礫		砂礫			
	浮泥		-		-			
スポット調査 2m×2m	分類		カサノリ		カサノリ		ホソエカサ	
	被度		<5%		<5%		<5%	
	株数		++		R		R	
	個体群の成長段階		Ⅰ～Ⅲ		Ⅱ～Ⅲ		Ⅱ～Ⅲ	
	地点		枠①: 密度高		枠①: 密度低		枠①: 密度高	
詳細調査 0.5m×0.5m	分類		カサノリ	ホソエカサ	カサノリ	ホソエカサ	カサノリ	ホソエカサ
	株数		5	3	45	1	2	3
	成長段階		Ⅱ～Ⅲ	Ⅱ～Ⅲ	Ⅰ～Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ～Ⅲ	Ⅱ
	着生基盤種類		Cb	Cb	Cb	Cb	Cb	Cb
	着生基盤埋没深さ (cm)		0～3	0～5	0～3	0～1	0～1	0～1
	着生基盤長径 (cm)		3～11	3～6	2～4	2～3	2～3	2～3
	その他の海藻被度		<5%	5%	<5%	<5%	<5%	<5%
	その他の海草被度		<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%

注: 1. 水深は実測値を示す。

2. 表中の「-」は確認されなかったことを示す。

3. 各項目の凡例は以下の通りである。

浮泥堆積: +: 部分的に少量確認される、++: 全体的に少量確認される、+++: 全体的に 1mm 以上の堆積が確認される

成長段階: Ⅰ: 幼体、Ⅱ: 輪生枝、Ⅲ: 傘状体、Ⅳ: 衰退した状態

株数: R: 1～10 本、+: 11～50 本、++: 51～100 本、c: 101～500 本、vc: 1,000 本以上 (概数記録)、-: 出現せず

着生基盤: R: 岩盤、S: 転石、P1: 巨礫、Pm: 大礫、Ps: 小礫、Sh: 貝殻、Cm: 塊状サンゴ礫、Cb: 枝状サンゴ礫、その他 (ローフ、空缶等)

ウ) カサノリ類の本区域における分布特性の整理及び解析

カサノリ類の本区域における分布特性について、「平成 26 年度 那覇港（浦添ふ頭地区）公有水面埋立事業に係る事後調査報告書」（平成 27 年 7 月、浦添市土地開発公社・那覇港管理組合）を用いて、経年的な変化を整理及び解析した。

カサノリ類分布状況の経年変化は図 6.11.1.14 に、カサノリ分布状況の経年変化は図 6.11.1.15 に、ホソエガサ分布状況の経年変化は図 6.11.1.16 に示すとおりである。

カサノリ類の分布域は、浦添ふ頭地区のリーフ内において平成 15、21～25 年度に確認されており、直接改変部周辺の分布域南側では、分布域の分断化がみられ、平成 23 年度までは年々縮小する傾向にあったが、平成 23 年度から平成 26 年度にかけて大きな変化はみられなかった。

分布域北側においては、平成 23 年度には減少傾向がみられたが、その後、橋梁より海側の分布域において、顕著な減少傾向はみられなかった。

カサノリ類は、夏季に衰退し、冬季にサンゴ礫等を基盤に生長するという特徴があり、分布域は基盤の分布状況に依存する。そのため、台風や冬季風浪等に伴う強い波浪等の影響を受け、基盤の分布域が変化すると、カサノリ類の分布域も変化するため、外力条件によって、年変動が大きいと考えられる。

このような特徴を踏まえると、浦添ふ頭地区における分布域そのものは、毎年少しずつ変化しているものの、全体の分布位置や分布傾向は変わっていないことから、カサノリ類の分布は安定していると考えられる。

表 6.11.1.42 カサノリ類の分布面積

		単位:ha							
区分	被度	H16.1	H21.2	H22.1～2	H23.2	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
カサノリ	被度5%未満	-	-	-	-	10.8	16.0	14.5	11.9
	被度5%～10%未満	-	-	-	-	0.0	0.0	0.5	0.0
ホソエガサ	被度5%未満	-	-	-	-	10.0	15.9	12.1	9.7
	被度5%～10%未満	-	-	-	-	0.0	0.0	0.5	0.0
カサノリ類	被度5%未満	36.5	19.9	22.2	23.0	10.8	16.0	15.1	12.5
	被度5%～10%未満	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

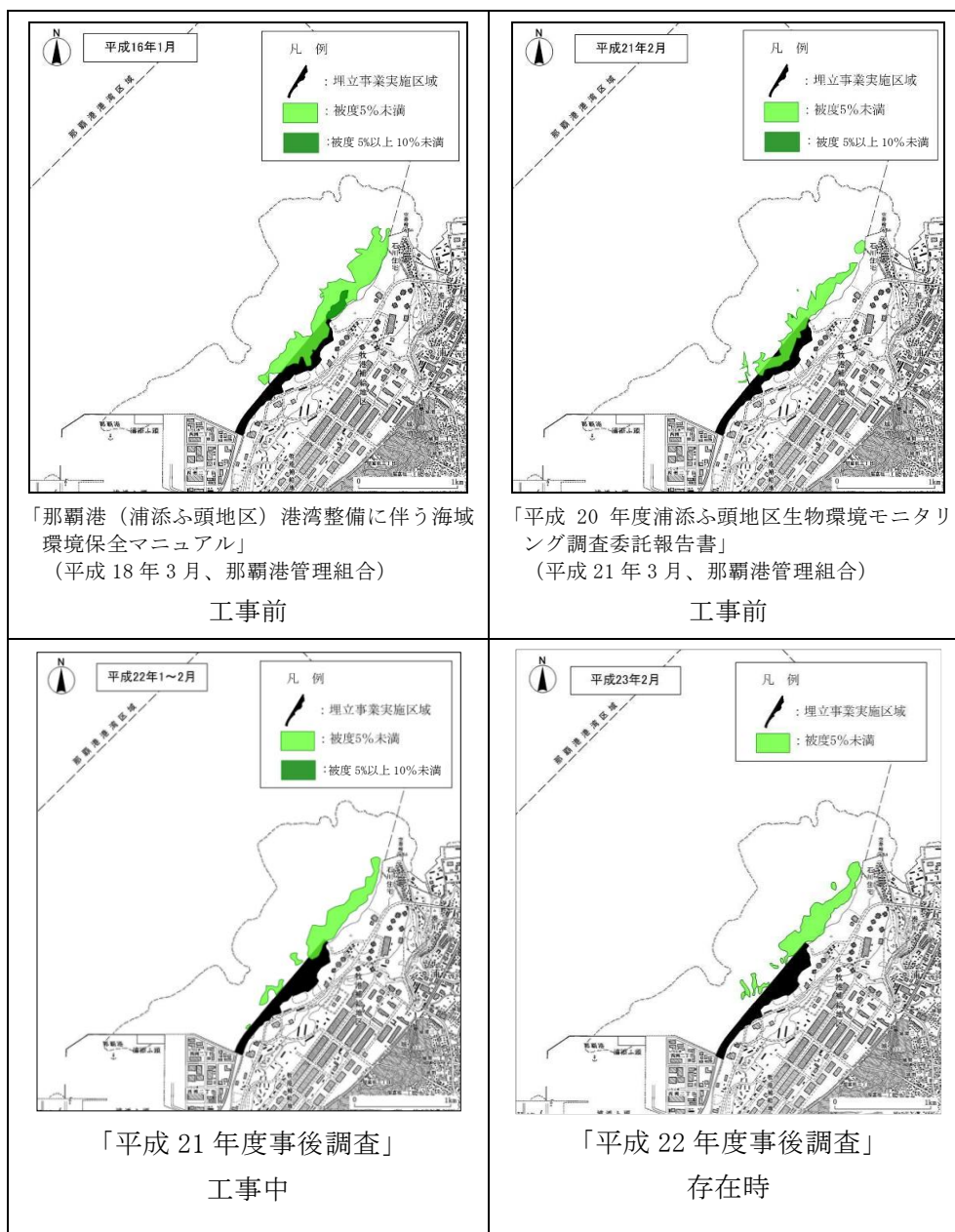
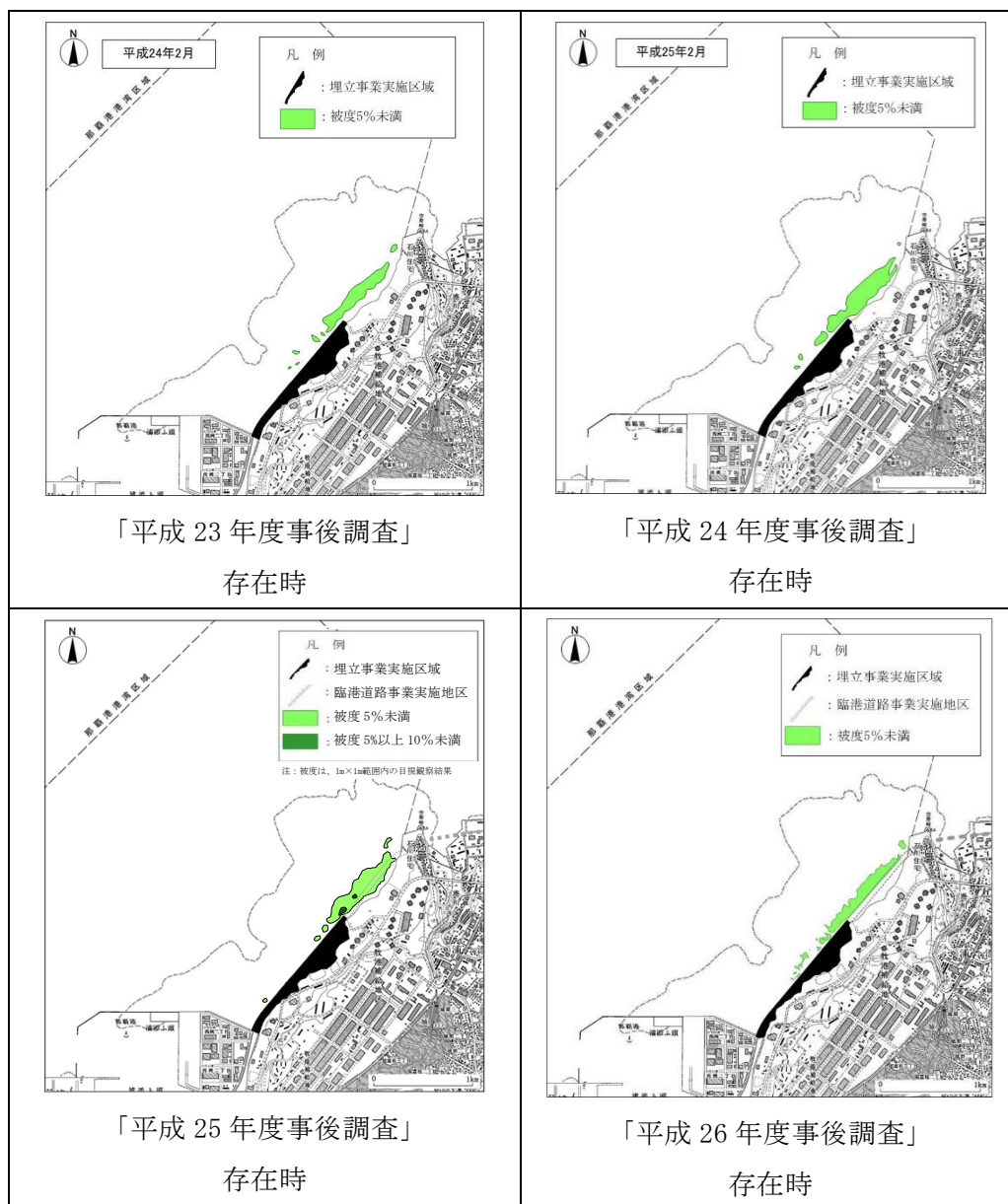
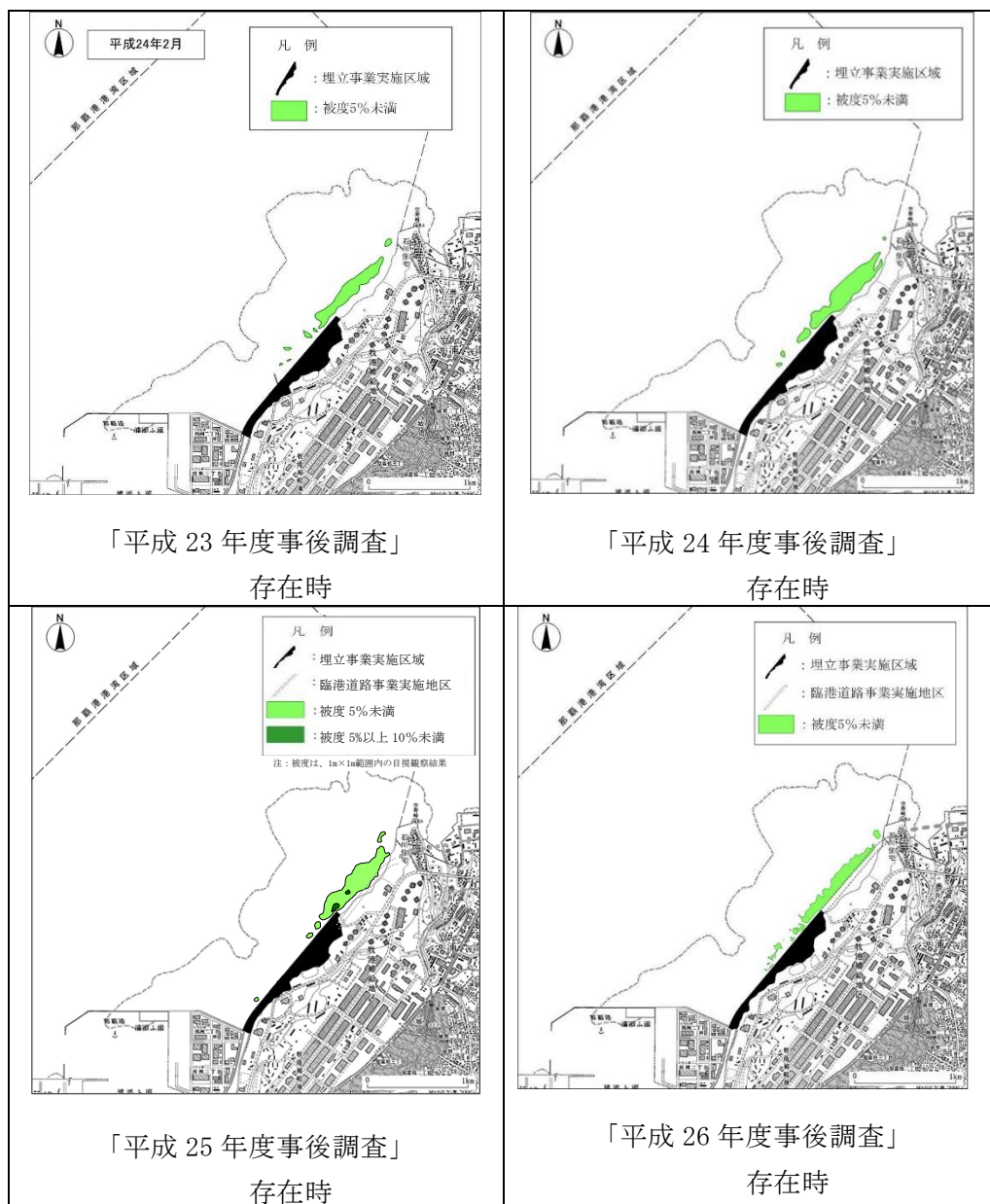


図 6.11.1.14 (1) カサノリ類分布状況の経年変化



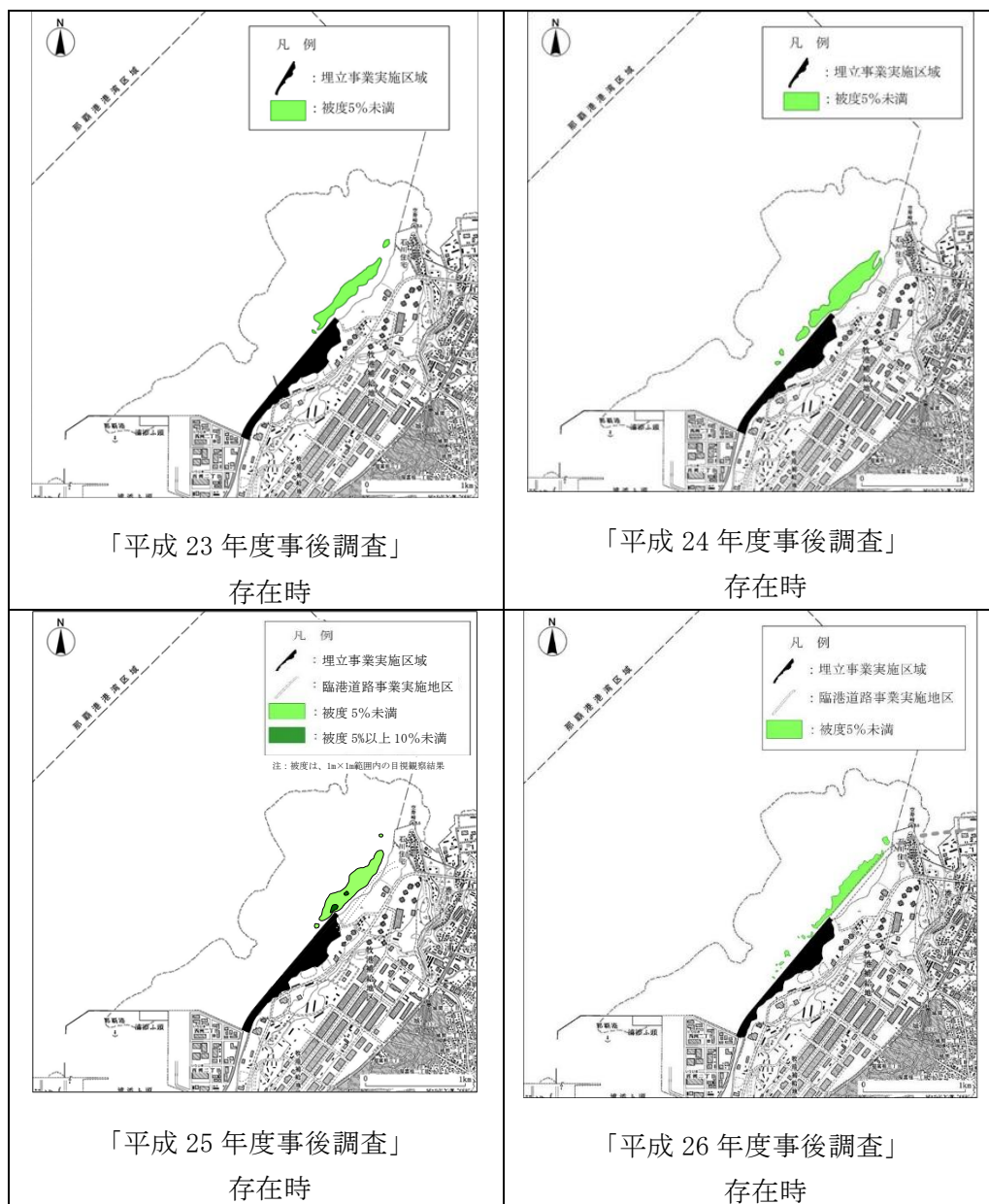
注：平成 26 年度は、橋梁部下部及びその周辺については、橋梁工事施工区域となっていたため、調査を行っていない。

図 6.11.1.14 (2) カサノリ類分布状況の経年変化



注：平成 26 年度は、橋梁部下部及びその周辺については、橋梁工事施工区域となっていたため、調査を行っていない。

図 6.11.1.15 カサノリ分布状況の経年変化



注：平成 26 年度は、橋梁部下部及びその周辺については、橋梁工事施工区域となっていたため、調査を行っていない。

図 6.11.1.16 ホソエガサ分布状況の経年変化

(シ) ウミガメ類

ア) 測線調査

調査測線における海岸の状況は表 6.11.1.43、図 6.11.1.17 に、調査結果は表 6.11.1.44 に示すとおりである。また、他項目の調査実施時におけるウミガメ類の確認状況は、図 6.11.1.18 に示すとおりである。

調査測線において、潮上帯以上の高さまで砂浜が存在し、ウミガメ類の産卵が可能な場所は 1 区域（区域⑤）確認された。この区域を含む当該地域の海岸を対象に、令和 7 年 5～9 月に毎月 2 回の頻度で、上陸・産卵状況について日中の目視確認調査を実施した。

その結果、当該地域において、ウミガメ類の上陸跡及び産卵跡は確認されなかった。

ウミガメ類に関する他の調査時の確認状況としては、リーフ北側海域等で海中を遊泳する個体がみられたほか、区域①の砂浜前面において種不明ウミガメの死亡漂着個体が 1 個体確認された。

表 6.11.1.43 調査測線における海岸の状況

区域	海岸の状況	調査対象 ^{注)}
①	潮上帯以上の高さまで砂浜が極一部のみ存在するが、草木に覆われており、流木などの漂着物が多数みられる。	×
②	潮上帯の表面は、礫・転石・瓦礫等で覆われている。	×
③	潮上帯以上の高さに礫の多く混じる砂浜が存在する。	×
④	潮上帯の表面は、礫・転石・瓦礫等で覆われている。	×
⑤	潮上帯以上の高さまで砂浜が存在する。 区域中央部は、排水口から冲向きの滞により洗掘している。	○
⑥	潮上帯の表面は、礫・転石・瓦礫等で覆われている。	×
⑦	潮上帯以上の高さに砂浜がない。	×
⑧	潮間帯は岩盤・転石であり、潮上帯は岩盤又は護岸である。	×
⑨	潮上帯以上の高さまで砂浜が存在するが、潮上帯付近に移動障害要因となる護岸が存在する。	×

注：○：砂浜が存在し、ウミガメ類の産卵が可能な海岸

×：砂浜が存在せず、ウミガメ類の産卵に適さない海岸

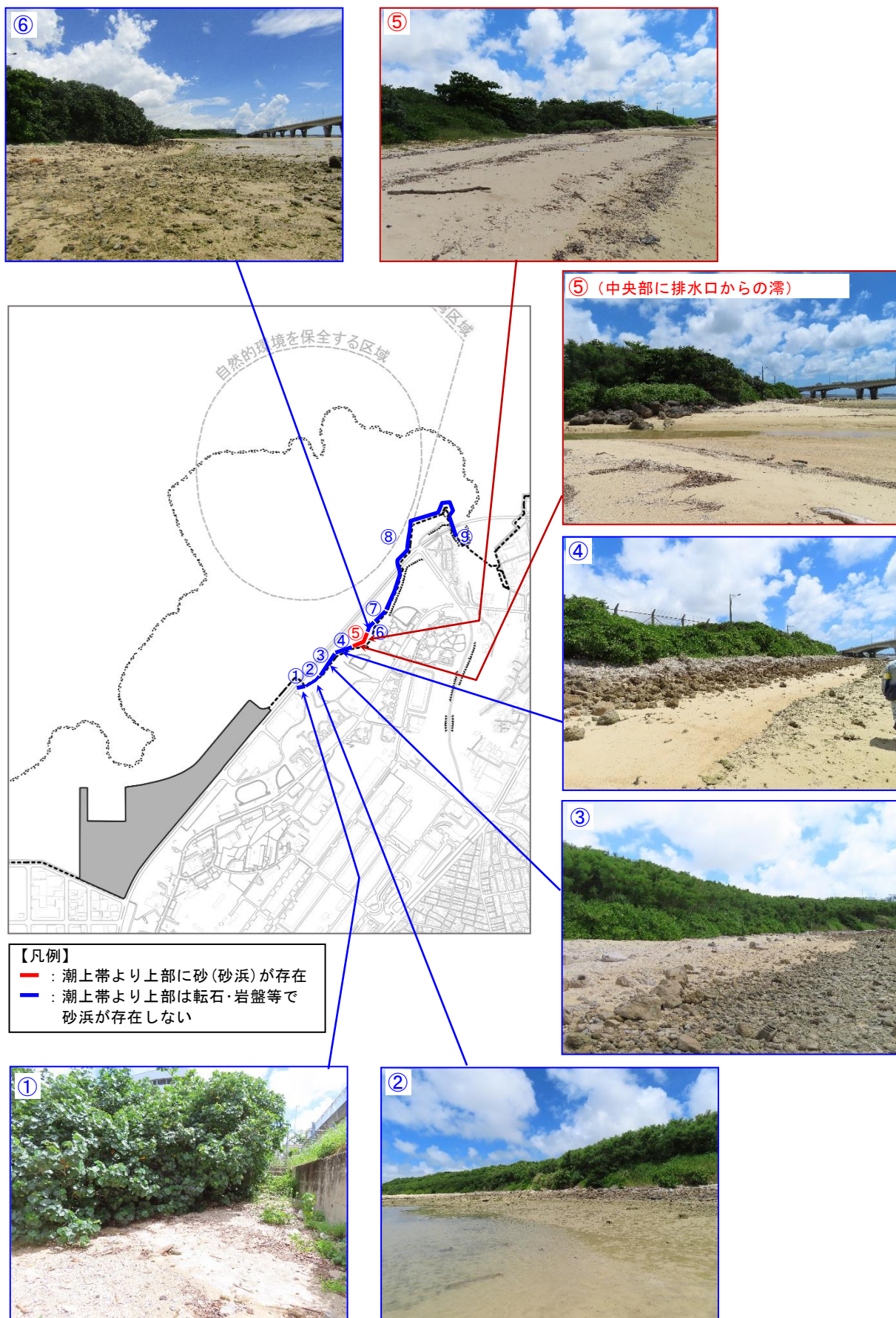


図 6.11.1.17 (1) 調査測線の海岸状況 (区域①～⑥)

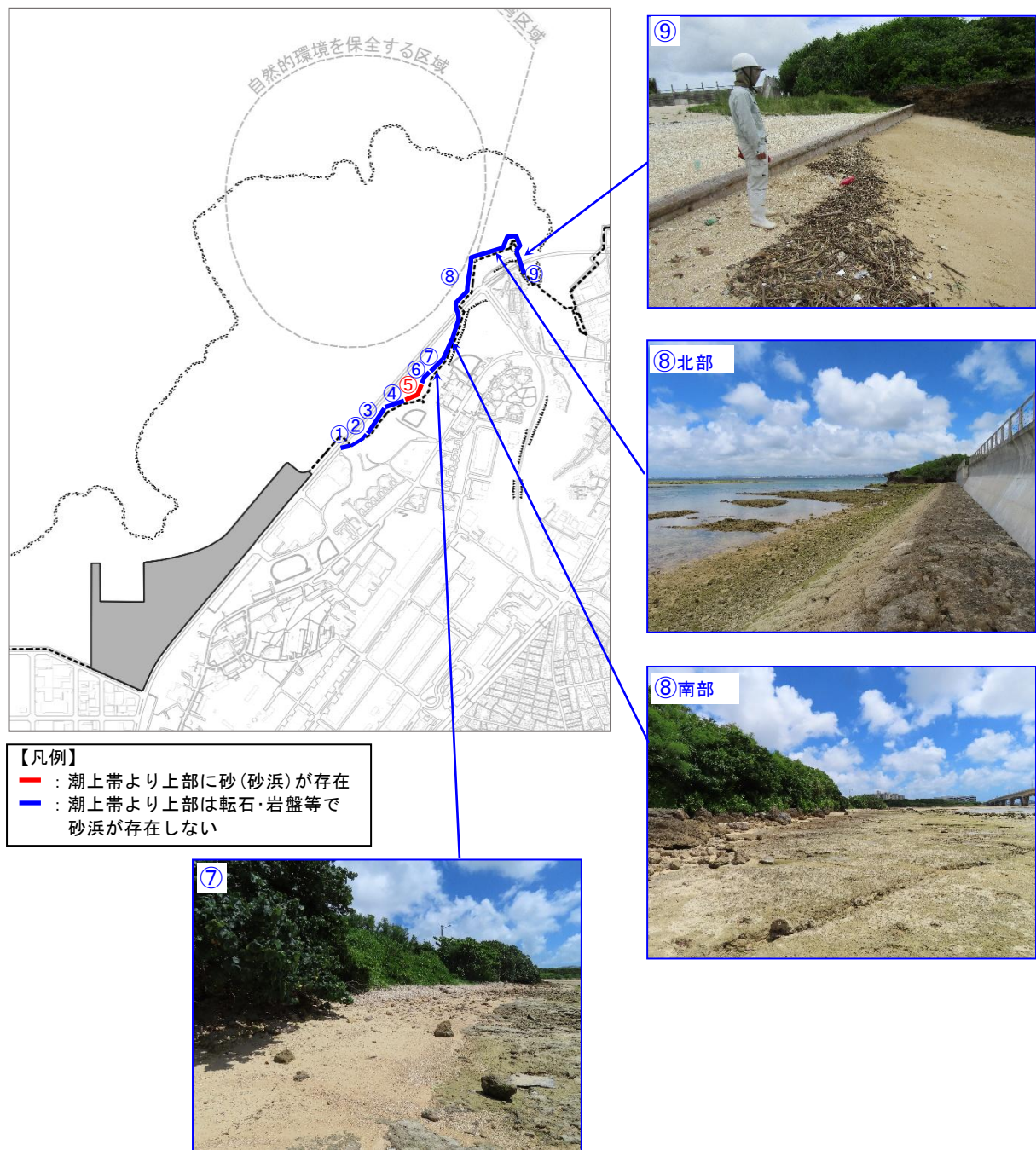


図 6.11.1.17 (2) 調査測線の海岸状況 (区域⑦～⑨)

表 6.11.1.44 ウミガメ類の測線調査結果

回次	調査期日	潮名	天候	調査結果	
				上陸跡	産卵跡
1	令和7年5月13日	大潮	晴	無し	無し
2	令和7年5月29日	中潮	曇	無し	無し
3	令和7年6月12日	大潮	晴	無し	無し
4	令和7年6月27日	中潮	晴	無し	無し
5	令和7年7月11日	大潮	曇	無し	無し
6	令和7年7月24日	大潮	雨	無し	無し
7	令和7年8月8日	大潮	晴	無し	無し
8	令和7年8月25日	中潮	晴	無し	無し
9	令和7年9月8日	大潮	晴	無し	無し
10	令和7年9月19日	中潮	晴	無し	無し

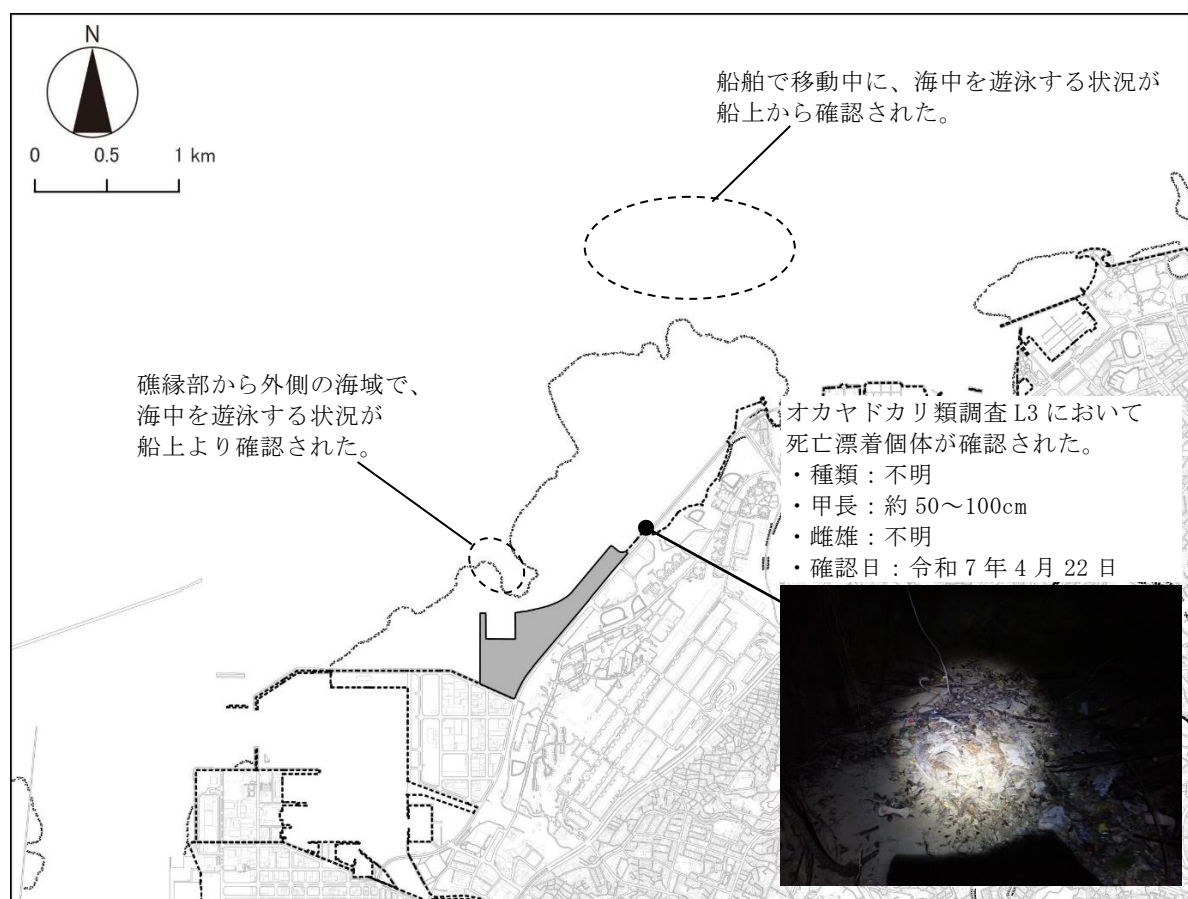


図 6.11.1.18 他項目の調査実施時におけるウミガメ類の確認状況

イ) 確認調査

(a) 文献等調査

浦添ふ頭地区リーフ内及びその周辺におけるウミガメ類の上陸・産卵の記録は、文献等で確認されなかった。

沖縄県教育委員会は、平成5年度から7年度にかけて、県内の砂浜の状況やウミガメ類の産卵状況について、聞取調査及び現地調査を実施しているが、浦添市周辺については聞取調査で産卵の情報が得られなかった。このため現地調査地点（沖縄島に63か所及び周辺12島嶼に48か所）に選定されていない^{出典¹}。環境省が実施しているモニタリングサイト1000におけるウミガメ類調査では、ウミガメ類が産卵に訪れる全国の主な砂浜33サイトが調査対象に選定されているが、沖縄島においてはサイトが設定されていない^{出典²}。また、NPO法人 日本ウミガメ協議会のwebサイトにおいて、沖縄島における産卵は、北部の海岸で比較的多く、中部では読谷村や恩納村、南部では糸満市大度海岸も有名であるとされている^{出典³}。このように、浦添ふ頭地区周辺は主要な産卵場ではなく、前述の測線調査における現地状況をみてもウミガメ類の産卵に適した海岸が極めて少ないことから、既往文献等における確認記録は存在しないと考えられる。

出典：1. 「ウミガメ類生息実態調査報告書Ⅰ-沖縄島及び周辺離島における調査結果-」（平成8年、沖縄県教育委員会）

2. 環境省自然環境局生物多様性センター（2023）モニタリングサイト1000 ウミガメ調査 2017-2021年度とりまとめ報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 山梨

3. 特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会 web サイト HOME>ウミガメについて>産卵地のご紹介
https://www.umigame.org/umigamenitsuite/cn10/kyoukasho_sanranti.html

ウ) ヒアリング調査

ウミガメ類について、漁業者にヒアリングを実施した。ヒアリング調査の実施概要は表 6.11.1.45 に、ヒアリング調査結果は表 6.11.1.46 に示すとおりである。

表 6.11.1.45 ヒアリング調査実施概要

調査期日	令和7年7月4日 10:00～11:00
対象者	漁協職員1名

表 6.11.1.46 ヒアリング調査結果

対象生物	ヒアリング調査結果
ウミガメ類	・夜間の潜水漁では、黄破線の範囲の礁縁部で、水深 7～15m の岩に頭を突っ込んで眠っているウミガメが確認される。基本的にはアオウミガメでサイズは小型～中型の個体で 40～50cm くらいである。3 回に 1 回程度の頻度で見かける。宜野湾沖の沖の瀬もおそらく同じような状況である。 ・昼間の潜水漁では満潮時にカーミージーの黄破線※①の範囲辺りからリーフ内に入ってくるウミガメも確認されている。小型～中型のアオウミガメと思われる。リーフ内で頭を出しているのを見ることもある。 ・刺し網をする赤破線の範囲は、年に数回もない程度でウミガメがかかっており、前日に網を入れると、朝に死んでいることがある。小型～中型で 40cm くらいである。 ・夜間、まれに 30～40cm くらいのタイマイが眠っていることがある。 ・ウミガメは浦添で産卵していないだろうと漁業者は言っている。 ・小型定置網はなく、刺し網も 1 人しかいないので、網でカメが死ぬことはあまりない。 ・今年の冬～春に、10cm くらいのアカウミガメがゴミと一緒に漁港内※②で浮いていたため、保護して美ら海水族館に引き取ってもらった。 注：ヒアリング時の受領資料より該当範囲を記載した。 ウミガメ類のヒアリング結果

(ス) 海産哺乳類

ア) 文献調査

海産哺乳類であるジュゴンについて収集した文献は表 6.11.1.47 に、文献調査結果概要は表 6.11.1.48 に示すとおりである。

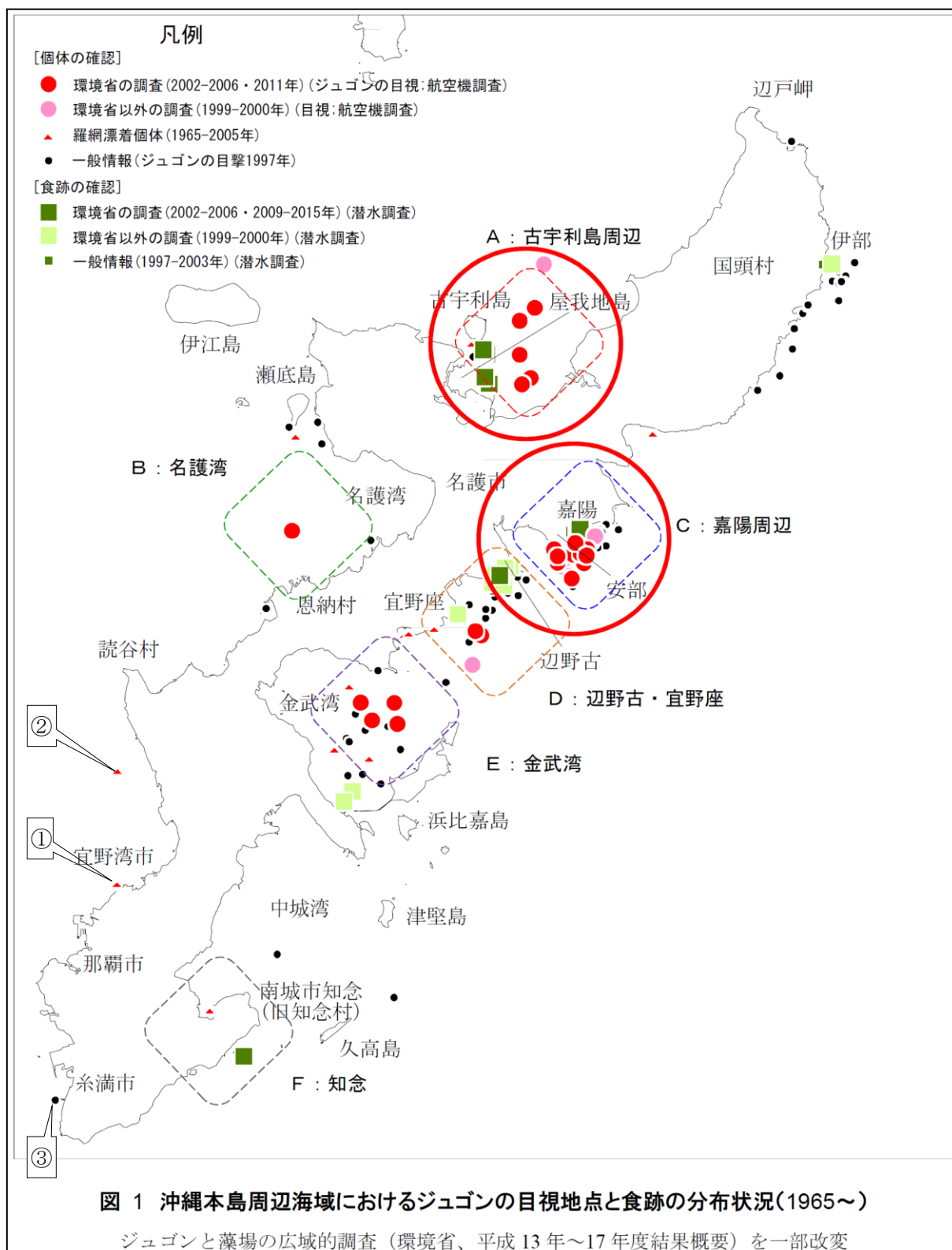
表 6.11.1.47 収集した文献

No.	文献名	著者	発行年
1	ジュゴンと藻場の広域的調査 平成 13 年～17 年度 結果概要	環境省	平成 18 年
2	ジュゴンと地域社会との共生推進の取組（平成 18～27 年 度結果概要について）	環境省	平成 28 年

表 6.11.1.48 文献調査結果概要

生物	文献調査結果
ジュゴン	① 1965～2005 年の期間において、空寿崎付近で羅網漂着個体の確認が 1 例報告されている。 ② 周辺海域では、1965～2005 年の期間において、読谷村～嘉手納町の沖合で羅網漂着個体の確認が 1 例報告されている。 ③ 糸満市前面海域にて 1997 年にジュゴン目撃の一般情報が確認されている。

注：①～③の地点は図 6.11.1.19 と一致する。



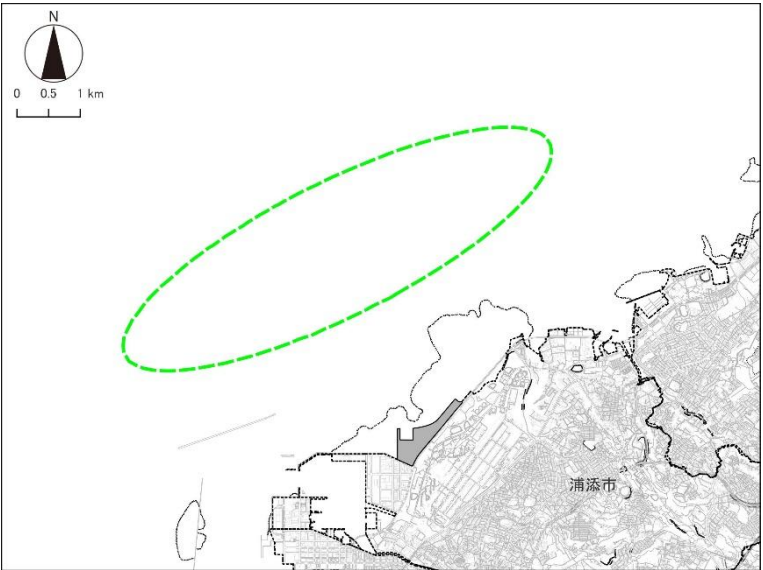
注:「ジュゴンと藻場の広域的調査平成13年～17年度 結果概要」より転載

図 6.11.1.19 沖縄本島周辺海域におけるジュゴンの目視地点と食痕の分布状況(1965～2006)

イ) ヒアリング調査

海産哺乳類であるジュゴンとイルカ・クジラ類について、漁業者にヒアリングを実施した。ヒアリング調査結果は表 6.11.1.49 に示すとおりである。

表 6.11.1.49 ヒアリング調査結果

調査日	令和7年7月4日 10:00～11:00
対象者	漁協職員1名
対象生物	ヒアリング調査結果
海産哺乳類 (ジュゴン イルカ・ クジラ類)	・ジュゴンの存在について、聞いたことはない。 ・イルカ・クジラは緑破線の範囲内で非常に稀に確認される。クジラは緑破線の範囲よりももう少し沖合での発見が多い。 ・カーミージー沖くらいでイルカの背を見たという話はあったが、何頭もいたことはない。 ・3年前くらいに、牧港漁港に迷いイルカが入ったことがあり、新聞記事に出た（沖縄タイムス、2023年4月24日）。 ・ザトウクジラは1～3月あたりに見られるが、昼間海中で声を聞くことがそれほどないため結構遠い場所だと思われる。 ・浦添では混獲はない。  注：ヒアリング時の受領資料より該当範囲を記載した。 海産哺乳類のヒアリング結果

(セ) 重要な種

ア) 海域動物

既存の現地調査及び現地調査で確認された重要な種の一覧は表 6.11.1.50 に、重要な種の確認位置は図 6.11.1.20 に、確認された主な重要な種は表 6.11.1.51 に示すとおりである。

海域動物では、計 41 種類の重要な種が確認された。

現地調査では、絶滅危惧Ⅱ類（環境省 RL）や絶滅危惧Ⅱ類（沖縄県 RDB）に該当する種として、新生腹足目のミノムシガイ、マルスダレガイ目のリュウキュウサラガイ、ウラキツキガイ、アマオブネガイ目のレモンカノコ等が確認された。リーフ内ではクロベラ、オキナワヒシガイ等が確認された。

表 6.11.1.50 重要な種の一覧（海域動物）

No.	分類	門	和名	現地調査	選定基準			
					環境省RL	環境省海洋生物RL	沖縄県RDB	水産庁海洋生物RDB
1	サンゴ類	刺胞動物	ヒメサンゴ	○		準絶滅危惧		
2	魚類	脊椎動物	カスリフサカサゴ	○		準絶滅危惧		
3			クロベラ	○		準絶滅危惧		
4			アカテンコバンハゼ	○		準絶滅危惧		
5			アイコバンハゼ	○		準絶滅危惧		
6			キイロサンゴハゼ	○		準絶滅危惧		
7			フタイロサンゴハゼ	○		準絶滅危惧		
8			コバンハゼ	○		準絶滅危惧		
9	底生動物	軟体動物	レモンカノコ	○	準絶滅危惧		準絶滅危惧	
10			クサイロカノコ	○	準絶滅危惧			
11			キンランカノコ	○	準絶滅危惧			
12			ネジマガキ	○	準絶滅危惧		準絶滅危惧	
13			ヨウラクレイシダマシ	○			準絶滅危惧	
14			ミノムシガイ	○	絶滅危惧Ⅱ類		絶滅危惧Ⅱ類	
15			ホソスジヒバリガイ	○	準絶滅危惧		絶滅危惧Ⅱ類	
16			ツキガイ	○			準絶滅危惧	
17			ウラキツキガイ	○	絶滅危惧Ⅱ類		絶滅危惧Ⅱ類	
18			チヂミウメノハナ	○			準絶滅危惧	
19			カブラツキガイ	○			準絶滅危惧	
20			ツマベニマメアゲマキ	○	準絶滅危惧		準絶滅危惧	
21			バライロマメアゲマキ	○	準絶滅危惧		準絶滅危惧	
22			カワラガイ	○	準絶滅危惧		準絶滅危惧	
23			オキナワヒシガイ	○	準絶滅危惧			
24			オウギカノコアサリ	○			準絶滅危惧	
25			ユウカゲハマグリ	○	絶滅危惧Ⅱ類		準絶滅危惧	
26			オミナエシハマグリ	○	準絶滅危惧			
27			オイノカガミ	○	準絶滅危惧		準絶滅危惧	
28			リュウキュウサラガイ	○			絶滅危惧Ⅱ類	
29			ヒノデガイの一種	○	準絶滅危惧		絶滅危惧Ⅱ類	
30			ミクニシボリザクラ	○	準絶滅危惧		準絶滅危惧	
31			ハスメザクラ	○	準絶滅危惧		準絶滅危惧	
32			チガイザクラ	○	絶滅危惧Ⅱ類		準絶滅危惧	
33			アシガイ	○	準絶滅危惧			
34			ハスメヨシガイ	○	準絶滅危惧		準絶滅危惧	
35		星口動物	スジホシムシ	○		準絶滅危惧		
36		節足動物	ブビエスナモグリ	○		情報不足		
37			モバホソスナモグリ	○		情報不足		
38			<i>Naushonia lactoalbida</i>	○		情報不足		
39			リュウキュウカクエンコウガニ	○		情報不足	準絶滅危惧	
40			ヒメカクオサガニ	○		準絶滅危惧		
41			メナガオサガニ	○			準絶滅危惧	
出現種類数				41	20	14	23	0

注：改訂第3版ではミナミウロコガイが掲載。

以下の①～④のいずれかに該当しているものを「重要な種」として選定した。

①環境省 RL : 「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年 3 月 27 日報道発表、環境省)に記載されている種及び亜種

②環境省海洋生物 RL : 「環境省版海洋生物レッドリストの公表について」(平成 29 年 3 月 21 日報道発表、環境省)に記載されている種及び亜種

③水産庁海洋生物 RL : 「海洋生物レッドリストの公表について」(平成 29 年 3 月 21 日報道発表、水産庁)に記載されている種及び亜種

- ・絶滅危惧Ⅰ類 : 絶滅の危機に瀕している種
- ・絶滅危惧ⅠA 類 : 絶滅の危機に瀕している種のうち、ごく近い将来における野生での絶滅の可能性が極めて高いもの
- ・絶滅危惧ⅠB 類 : 絶滅の危機に瀕している種のうち、ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- ・絶滅危惧Ⅱ類 : 絶滅の危険が増大している種
- ・準絶滅危惧 : 存続基盤が脆弱な種。現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- ・情報不足 : 評価するだけの情報が不足している種
- ・地域個体群 : 地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群

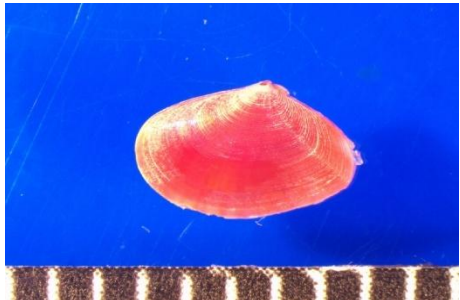
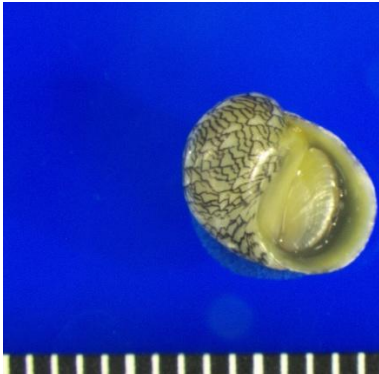
④改訂沖縄県 RDB 第 3 版 : 「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータおきなわ)第 3 版-動物編-」(平成 29 年 5 月 17 日、沖縄県)に記載されている種及び亜種

- ・絶滅危惧Ⅰ類 : 沖縄県では絶滅の危機に瀕している種
- ・絶滅危惧ⅠA 類 : 沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
- ・絶滅危惧ⅠB 類 : 沖縄県ではⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- ・絶滅危惧Ⅱ類 : 沖縄県では絶滅の危機が増大している種
- ・準絶滅危惧 : 沖縄県では存続基盤が脆弱な種
- ・情報不足 : 沖縄県では評価するだけの情報が不足している種
- ・絶滅のおそれのある地域個体群 : 沖縄県で地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれの高い個体群

※重要種保護のため位置情報は表示しない。

図 6.11.1.20 重要な種の確認位置（現地調査 海域動物）

表 6. 11. 1. 51 確認された主な重要な種

	
クロベラ	ミノムシガイ
	
オキナワヒシガイ	リュウキュウサラガイ
	
ウラキツキガイ	レモンカノコ

イ) 海域植物

既存の現地調査及び現地調査で確認された重要な種の一覧は表 6.11.1.52 に、重要な種の確認位置は図 6.11.1.21 に、確認された重要な種は表 6.11.1.53 に示すとおりである。

海域植物では、計 24 種類の重要な種が確認された。

現地調査では、絶滅危惧Ⅰ類（沖縄県 RDB）では、ホソエガサが確認され、絶滅危惧Ⅱ類（環境省 RL）や絶滅危惧Ⅱ類（沖縄県 RDB）では、カサノリ、コアマモ、マツバウミジグサ等が確認された。カサノリ、ホソエガサはリーフ内における橋梁部周辺で確認された。リュウキュウスガモ、ウミヒルモ、ウミジグサ、マツバウミジグサ等はリーフ内に広く確認された。

表 6.11.1.52 重要な種の一覧（海域植物）

No.	綱	和名	現地調査	選定基準		
				環境省RL	沖縄県RDB	水産庁海洋生物RDB
1	緑藻	オオネダシグサ	○	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
2		マガタマモ	○	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
3		ヒナイワズタ	○	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
4		クビレズタ	○	情報不足		
5		フササボテングサ	○	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
6		ソリハサボテングサ	○	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
7		ニセハウチワ	○		情報不足	
8		ウスガサネ	○	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
9		ホソエガサ	○	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	
10		カサノリ	○	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
11	褐藻	ヒメヤハズ	○	情報不足	情報不足	
12		ヤバネモク	○	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
13		コバモク	○	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
14	紅藻	ハイコナハダ	○	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
15		フイリグサ	○	情報不足	準絶滅危惧	
16		リュウキュウオゴノリ	○	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
17		ベニゴウシ	○	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	
18		カラゴロモ	○		絶滅危惧Ⅱ類	
19	単子葉植物	リュウキュウスガモ	○	準絶滅危惧		
20		ウミヒルモ	○	準絶滅危惧		
21		コアマモ	○		絶滅危惧Ⅱ類	
22		ウミジグサ	○	準絶滅危惧		
23		マツバウミジグサ	○	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
24		ベニアマモ	○	準絶滅危惧		
出現種類数			24	21	19	0

以下の①～④のいずれかに該当しているものを「重要な種」として選定した。

- ①環境省 RL : 「第5次レッドリスト（植物・菌類）の公表について（お知らせ）」（令和7年3月18日報道発表、環境省）に記載されている種及び亜種
- ②環境省海洋生物 RL : 「環境省版海洋生物レッドリストの公表について」（平成29年3月21日報道発表、環境省）に記載されている種及び亜種
- ③水産庁海洋生物 RL : 「海洋生物レッドリストの公表について」（平成29年3月21日報道発表、水産庁）に記載されている種及び亜種
- ・絶滅危惧Ⅰ類 : 絶滅の危機に瀕している種
 - ・絶滅危惧ⅠA類 : 絶滅の危機に瀕している種のうち、ごく近い将来における野生での絶滅の可能性が極めて高いもの
 - ・絶滅危惧ⅠB類 : 絶滅の危機に瀕している種のうち、ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
 - ・絶滅危惧Ⅱ類 : 絶滅の危険が増大している種
 - ・準絶滅危惧 : 存続基盤が脆弱な種。現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
 - ・情報不足 : 評価するだけの情報が不足している種
 - ・地域個体群 : 地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群
- ④改訂沖縄県RDB第3版 : 「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-動物編-」（平成29年5月17日、沖縄県）に記載されている種及び亜種
- ・絶滅危惧Ⅰ類 : 沖縄県では絶滅の危機に瀕している種
 - ・絶滅危惧ⅠA類 : 沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
 - ・絶滅危惧ⅠB類 : 沖縄県ではⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
 - ・絶滅危惧Ⅱ類 : 沖縄県では絶滅の危機が増大している種
 - ・準絶滅危惧 : 沖縄県では存続基盤が脆弱な種
 - ・情報不足 : 沖縄県では評価するだけの情報が不足している種
 - ・絶滅のおそれのある地域個体群 : 沖縄県で地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれの高い個体群

※重要種保護のため位置情報は表示しない。

図 6.11.1.21 重要な種の確認位置（現地調査 海域植物）

表 6.11.1.53 確認された重要な種

 ホソエガサ	 カサノリ
 リュウキュウスガモ	 ウミヒルモ
 コアマモ	 ウミジグサ
 マツバウミジグサ	